

令和3年度 静岡大成高等学校 学校評価書

<評価基準(達成度)> A 80%以上 B 50%以上 80%未満 C 30%以上 50%未満 D 30%未満

評価対象	評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての成果と改善点	評価	ご意見
目指す教師	1. 厳しく、あたたかく、生徒と同じ位置で指導する。	①良いことと悪いことをはっきりと示す。 ②生徒の人権を尊重し子供扱いをしない。力に頼った指導をしない。	A	体罰の報告や相談の件数は0であった。コロナにより生徒にとって制限のある学校生活であったがそのストレスを上手にコントロールできた。	A	目指す教師の姿ができれば、よい生徒指導等へつながっていくものと考えられる。生徒によびかける以上、教師の取り組みの意識が重要。 自己評価以降、体罰の報告・相談に関する件で、1名報告があった。これに関して、力に頼った指導はいけないという認識のもと、一概に全ての指導がダメということではなく、どういった理由があったのか、生徒がどのように受け止めたのかという点が重要である。 コロナ陽性者も出る中、教員たちで協力して対応した。さらなるコミュニケーションが図れたらよい。
	2. 率先垂範を実行する。	①目指す生徒のあり方を自ら実行し、正しい言葉遣いで話しをする。 ②先頭に立って生徒を導く。生徒と一緒に汗を流す。	A	教員が先頭に立って導いていく部分と生徒の主体性を引き出す部分のバランスについて、今後も研鑽を積んでいきたい。	A	
	3. ビジョンを持って一生懸命努力する。	①できない理由を探す前にまずやってみる。 ②ぶれないこと、あきらめないこと。	A	こちらもコロナによりさまざまな活動制限がある中、全教職員の協力により今できることをやり切ることができた。	A	
	4. 私学人としての自覚と理想を持っている。	①学校の発展を共通の目的とする。私学だからできること、私学だからやらねばならぬことを考え実行する。 ②保護者との良いリレーションを構築する。	A	各種学校行事の中止などにより、生徒・保護者の満足度は少なからず減少した。次年度こそはその満足度を回復させたい。	A	
	5. チームとしての教員集団である。	①前向きで明るい性格になる。仲間の良いところを見つける。 ②真のコミュニケーションを図る。常にポジティブな表現を使う。	A	今年度もコロナ対応・コロナ疲れの1年であったが、コミュニケーションを図る中で教員集団の対応力を発揮することができた。	A	
学習指導	1. 基礎学力を身につけた生徒を育成する。	①授業中の机間巡視や課題点検、小テストを実施する。 ②必要な場面で義務教育内容を取り入れた授業を実施する。 ③基礎学力診断テストの結果を基に授業改善に努め、「わかる授業」「楽しい授業」「身につく授業」を実践する。	A	特に4月の授業では前年度の学び直しに重点を置くことにより、定着度を図る中で授業を進めることができた。学力の二極化が進む中、両者の指導方法についてさらなる研鑽を積みたい。	B	毎日自学ノートを提出させるなどの取組を実施しており、取組面は評価できる。 学力の二極化が進み、低位な生徒の持ち上げが課題である。 ICTの活用に関しては、少しずつ前進しているが、前向きに取り組んでいる教員とそうでない教員によって自己評価が分かれた。
	2. 学習習慣を身につけた生徒を育成する。	①折に触れて進路に関する話をし、学習に対する目的を持たせる。 ②学習に対する取り組みや結果に対し、褒めることで自信を持たせる。 ③宿題を与え評価することによって学習習慣を身につけさせる。 ④学習習慣を身につける手段の1つとして自学ノートを取り入れる。	A	目標に向かって努力することの尊さや自主性・計画性を持って学習を進めることの大切さを説いた。どうしても宿題が出ない生徒に対しては家庭の協力も得ながら指導していきたい。	A	
	3. ICTを活用した授業を展開し、学力の3要素を身につけさせる授業を研究する。	①ICTの活用法について自己研究や教科会で研鑽する。 ②学力の3要素を身につけさせる授業について自己研究や教科会での研鑽を実践につなげる。	B	オンライン授業の必要性も相まってICTの活用については多くの教員がスキルアップすることができた。学力の3要素の向上については、引き続き意識して取り組んでいきたい。	B	
進路指導	1. 生徒に自己を正しく理解させ、自らの進路を主体的に選択・決定させる。	①検定や模試に積極的に取り組み、自分の学力を客観的に把握する。 ②部活動や委員会活動などの活動記録を詳細に残させる。 ③早期に進路目標を設定し、実現に向けた対策を考えさせる。	A	生徒の多くは今持っている力で実現可能な進路目標を掲げている。もう1つ上のランクの進路実現の後押しをしていきたい。	B	生徒の進学・就職の道が決まりよかった。 一方、もっと上を目指したのではないかという思いもあり、今後はICTを活用し、教師間での生徒一人ひとりに関する情報共有を図りたい。
	2. 生徒一人一人の進路希望の実現に力を注ぐ。	①生徒の目標を把握し、今後の課題や改善策を考える。 ②教員間で生徒の進路に関する情報を共有する。	A	おかげさまで卒業生を進学先・就職先が全員決まった状況で送り出すことができた。今後も生徒の夢に寄り添った指導をしていきたい。	A	

令和3年度 静岡大成高等学校 学校評価書

<評価基準(達成度)> A 80%以上 B 50%以上 80%未満 C 30%以上 50%未満 D 30%未満

評価対象	評価項目	具体的な取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての成果と改善点	評価	ご意見
生徒指導	1. 建学の精神/校則に基づいた指導をする。	①学校生活のリズムを作るような働きかけをする。 ②自分たちの学校をきれいにしようとする気持ちを育てる。 ③一生懸命やろうという気持ちにさせる。 ④生徒一人一人と向き合う時間や機会を増やす。	B	遅刻や欠席の数が進級に係わる生徒は全校で3名であった。凛々しさや優しさを育む指導が浸透しつつあると感じるが、自主性に基づいた行動という点では引き続き指導が必要である。	B	生徒指導によって退学をする生徒は今年度含め近年おらず、大きな問題はないと考えられる。
	2. 安全・安心な学校づくりを徹底する。	①正しい判断と行動ができるように常日頃から働きかけをする。 ②相手を思いやる気持ちを育む。 ③スマートフォンやiPadなどの情報機器の適切な使用を指導する。	A	人間関係のトラブルの9割はSNSが絡んでいる事象であるが、問題の早期発見・早期対応により安全や安心を確保することができた。引き続き、情報リテラシーの強化に努めたい。	A	SNSのトラブルは多いため、ネットパトロールを業者に依頼し、報告の都度生徒指導等を実施している。SNSの使い方については、講師を招いて生徒への注意喚起を実施しており、今後も継続したい。
	3. 生徒指導のスキルアップをする。	①全教職員がさまざまな場面で生徒指導を行う意識を持つ。 ②生徒指導において必要な力を身につけるよう努力する。	A	体罰や暴言の根絶が浸透し、感情的に叱るのではなく諭す指導が定着してきたが、保護者対応については苦慮している若い教員が多い。ベテラン教員によるフォローをお願いしたい。	A	
ICT 地域貢献	1. 情報セキュリティ対策を万全にする。	①生徒・教員の情報セキュリティに関する意識レベルの向上を図る。	A	ICT機器の便利さは使い方を間違えると大きなトラブルにつながる。引き続き、生徒だけでなく教員に対してもその意識づけをし、学内のセキュリティレベルを完璧にしていきたい。	A	ICT管理については専門の教員を配置しており、高度な管理がされている。生徒や教員がそれを守っていけるかが重要である。
	2. 学校に誇りを持ち、地域に奉仕貢献する。	①地元へ根差し開かれた学校として、地域連携活動をおこなう。	B	コロナウイルスの影響で学校を開放できる機会は激減した。その中で、生徒による学校周辺の清掃活動や地域住民を対象にしたパソコン講座を開講した。	B	清掃活動やパソコン講座以外にも、美術部による風鈴設置や松ぼっつりの配布など地域活性化に貢献できた。
広報活動	1. 「全員広報」の意識を持ち、生徒募集に寄与した広報活動や日常業務を遂行する。	①本校の特長や生徒の活躍を広くアピールするとともに、在校生と保護者の満足度を上げ、ロコミでのPRにもつなげる。	A	コロナ対策を取る中ではあったが、各種イベントでは昨年度以上の来校者があった。また、入試では卒業生や在校生の弟妹が多く出願しており、在校生と保護者の満足度を表す結果だと考える。しかし、現状に満足することなく、さらなる発展を目指したい	B	教員間で活動に差があるのではないかと。来年度の新生人数は今年度を上回り、卒業生や在校生の兄弟姉妹の出願が多い点もよかった。来年度はHP含め広報にさらなる力を入れていきたい。